

こまえ平和フェスタ 2025 を終えて

こまえ平和フェスタ実行委員会

2025年8月31日（日）、狛江エコルマホールにて開催された「こまえ平和フェスタ 2025」（第20回）には、350名を超える方々にご来場（出演者65名含）いただきました。昨年、ロシアによるウクライナへの侵略、イスラエルによるガザへのジェノサイドともいえるべき侵攻のさなかに、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞し、「戦後・被爆80年」を噛みしめる機会となりました。ホワイエでは広島市立基町高校の生徒が描いた「原爆の絵」や多くの市民参加による作品、オリジナルな作品等、充実した展示が行なわれました。展示は事前・事後に西河原公民館ギャラリーでも実施され、市民の方に観賞していただきました。



今年のテーマは「えがお ひろがれ！いのち かがやけ！～核兵器も戦争もない未来を子どもたちに～」です。このテーマは世界で核保有国が侵略国として戦争をしている中で、そして国内でも防衛費の倍増が推し進められ、米軍との共同指揮や長射程ミサイル基地やその弾薬庫など基地機能の強化が日増しに強まっている中で、どのようにして平和な社会を創るのが問われる中で、戦争を止めさせ、核兵器廃絶をめざしていこうと狛江から呼びかけたものです。

情報保障として例年の手話通訳と文字通訳を行ない、保育も準備しました（希望者なし）。

ご来場いただいた市民のみなさん、そして賛同広告や事前・当日協賛金など物心両面でご協力いただいたみなさんの平和への想いを支えに、計画通りのこまえ平和フェスタを無事に終えることができました。深く御礼申し上げます。市民手作りの平和フェスタを継続し、狛江市の平和文化の一端を担うために、今後も計画性を持って進めてまいります。

来年の平和フェスタは2026年9月6日（日）を予定しています。来年こそコロナ前のように会場いっぱいの来場者となるように頑張ります。

なお、「こまえ平和フェスタ 2025」の詳細は
[\(http://komae-heiwa-fes.clean.to/\)](http://komae-heiwa-fes.clean.to/) をご覧ください。

開幕宣言

子どもたちによる「これから、こまえ平和フェスタ 2025 を始めます。」と元気な開幕宣言。照明さん、音響さん、要約筆記さん、手話通訳さん、舞台の皆さんと続き、そして「お客さん、準備は良いですか」（拍手）「拍手が小さい様です」（大きな拍手）。笑いと拍手で始まりました。



開幕は合唱「クスノキ」

♪我が魂は このつちに根ざし
 決して朽ちずに 決して倒れずに♪

作詞・作曲：福山雅治
 編曲：大熊啓



長崎の平和式典でも歌われた「クスノキ」を歌いたいと合唱団員から声があがり、開幕の歌を差し替えて、市民募集の平和フェスタ合唱団が歌いました。

司会は堀添里緒さん。

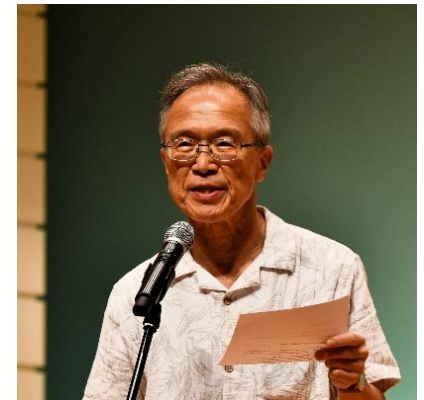
2013～2017 年当時、毎回のように朗読劇に出演し、司会もお願いしました。

今年は社会人として、世界を舞台に活動している合間を縫っての司会です。今年も朗読劇の出演と大忙し。



佐久間実行委員長のあいさつ

今回のテーマは、「笑顔ひろがれ、命かがやけ！」です。笑顔が広がって行くイメージはしやすいと思います。では、命が輝くとはどういうことなのでしょうかと問いかけ、「命の輝く時とは、例えば何か自分のしたいことなどに夢中になっている時…」そして「感謝出来ると命が輝く」と紹介し、「笑顔も、輝く命も、安心安全な毎日の基盤の上に成り立つもの」と指摘しました。森瀧さんの講演を参考にしながら「核兵器や戦争のない平和な日常がこれからも維持できるようにみんなで知恵を絞って、力を合わせて参りましょう。」



松原粕江市長のメッセージ（西尾副実行委員長代読）

公務のため出席できないこと、平和フェスタの機会に「平和について深く考え、…行動する…ことを深く願って」いると述べ、戦後 80 年事業として、多摩地域 26 市が合同で、「平和ユース研修事業及び平和サミットを開催します。…多摩地域一体となった平和文化の振興を図ってまいります。今年は全国各地で平和に関する事業が実施されていますが、一人ひとりが改めて平和の大切さを考える年になることを期待しております」と挨拶。

三角武久市議会議長のあいさつ（西村あつ子副議長代読）

開催への祝辞のあと、「現代の世界には、いまだに苦しみや悲しい現実が多く残されています。ウクライナではロシアによる軍事侵攻が続き、イスラエルとパレスチナなど、中東においても人々の命を脅かす対立が絶えません。また、戦争や紛争などにより、罪なき人々、特に子どもたちが、その被害を大きく受けています。」と述べ、「何よりも大切なものは、互いを思いやり、尊重し合う『人と人とのつながり』」であり、「世界中のすべての人々が、人と人とのつながりを大切にして、平和に生きていける世の中を願い、そのために自分たちにできることから」行動していこうと呼びかけました。平和フェスタの企画に



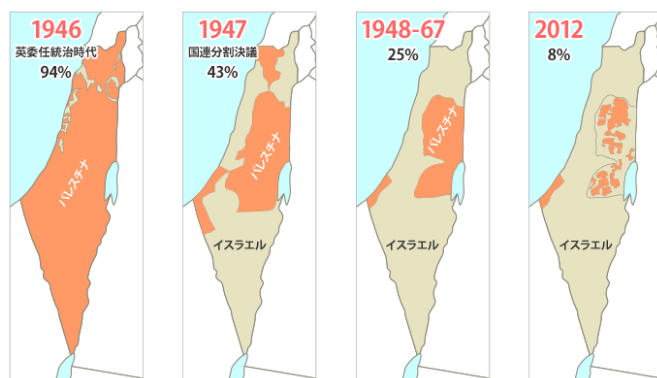
「平和を願う心の輪を広げる機会になることを期待して」いる、市議会として「平和で安全なまちづくりのために引き続き最大限の努力をしていきます」と述べました。西村副議長からも「戦争を経験した人が少なくなる中で、こうした地域での取り組みは重要。核兵器も戦争もない未来というテーマ、この思いを共有したい」と一言ありました。

朗読劇「顔・声・そしてひとりひとりの物語」

ガザの現状・戦争の実態を青年たちが演じました。出演者は恵泉女学園中高演劇部有志の池田帆希（ほの）さん、福永茜里（あかり）さん、朝生結（あそうゆい）さん、武内みずうみさんと、卒業生で司会の堀添里緒さんが出演。また、初めて生のピアノ演奏付きです。ピアノは

佐藤久実子さん、脚本・演出は二階堂まり実行委員です。何度も練習し、現在進行形で動いているガザの新しい事実を折り込みながらの朗読劇となりました。

ガザからパリの友人に送った手紙、「私たちは75年以上、イスラエルによる日常的な殺人、包囲、そしてテロにさらされてきた。その度に、自分たちの正当な権利について声を上げてきたのに、誰も答えてくれなかったではないか。友よ、昨日、イスラエル軍はガザのアル＝アハリ－病院を爆撃し、現時点で500人以上が殉死している。彼らはバラバラに切り刻まれ、肉の山となった」と、ガザの現状を生々しく紹介、第二次大戦後にイスラエルがパレスチナの土地に建国する歴史とその後のパレスチナへの迫害にも触れ、そして日本と世界がイスラエルのジェノサイドにどう向き合っているのかを指摘。広島・長崎で被爆した子どもたちの詩を読み、再びガザの惨状を訴え、学校が爆撃され、3人の子どもを失った母親（顎を砕かれる）が「F15 戦闘機から放たれたミサイルがオサマの頭を切り落とし、ヌールの体は蒸発し、リタルは右手以外がすべて消えました」「私は命こそ助かりましたが、今は砕かれた母の心で、子どもたちの名前を記憶と良心に刻みながら、一瞬一瞬を生きています」。平和の反対は「無関心」との指摘をして終わりました。



パレスチナとイスラエルの「領土」変遷



講演「核と人類は共存できない」 森瀧春子さん

森瀧さんは広島在住で、10月初旬に広島で「世界核被害者フォーラム」を開催する多忙な中、しかも体調も万全ではない中を来泊して、50分に渡り講演されました。講演テーマ「核と人類は共存できない」は父上に当たる森瀧市郎初代日本被団協理事長の言葉です。

世界の現状は核保有国によるロシアのウクライナ侵略、イスラエルのパレスチナ・ガザへの攻撃、アメリカ・トランプ政権のイラン核施設への爆撃、オバマ大統領の時、アメリカの先制核攻撃を止める動きに、



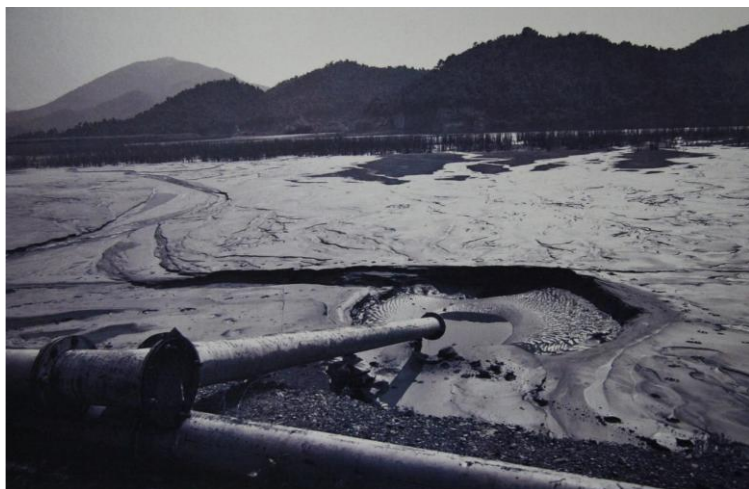
日本が水面下でストップをかけた、最近では日米が提携して核兵器を実戦使用することが協議されているなど具体的に指摘し、核戦争の危機が迫っていることを強く指摘しました。それを防ぐための世界に発信する原爆ドームの保存とそれを背景にした元安川の川縁のキャンドル活動を紹介し、

「火を灯すと川から亡くなった人たちの魂が帰って来られ、一緒に訴えているような気がする」と語りました。準備に手間取るが、何度もその時期その時期に実施、全国紙の1面でも掲載され、ネットで世界に拡散するとあちこちで使われ、世界に発信できている。

「核時代とは、核の開発が何をもたらしてきたのか、振り返ってみななければいけない。一人ひとりの命は地球より重い、ということ。広島では平和教育に必ず使っていた言葉。子どもたちにも命の大切さがわかってくる」。被爆者は高齢で病気も沢山出てくる。先日も核被害者フォーラムで登壇を予定していた方が亡くなった。その聞き取りをして絵を描いていた基町高校生に登壇してもらおうと考えている。追悼になる。こういう現実です。放射能は死ぬ間際まで苦しめると、語りました。

そして、核がもたらす被害は原爆被害者だけではないとして、ウラン採掘から精錬・濃縮という過程、核実験は2000回以上繰り返している。核戦争は悲劇的な結果をもたらし、核廃棄物を兵器に利用した劣化ウラン弾。コソボ紛争で大量に使われたが、一番は1991年のイラクの湾岸戦争、2003年からのイラク戦争と語り、これらの被害を直接、調査した結果を写真等で具体的に示しました。それらを科学的に調査してきたと述べ、世界核被害者フォーラムで目指しているのは核被害者の権利憲章制定と訴えました。

ウラン鉱山製錬所からの放射性排水をパイプ管で先住民集落に流し込む インド・ジャドゴダ



**1300本のキャンドルで描く ウクライナ文字で
NO WAR NO NUKES ! HET BOYHE!**

戦争反対！核戦争止めろ！核廃絶を！

2022.3.8 原爆ドーム



パレスチナに自由を！

核絶対否定戦争反対！2024.11.26



**インド・ジャドゴダ・ウラン鉱山
放射能被害障害児**



インド・ジャドゴダ・ウラン鉱山
知的・身体的障害をもつ 17 歳
の少年



知的・身体的障害を持たされる
6才の子を抱く母親左目欠損で
生れる



米・ネバダ核実験場19
52年から40年間100
回の大気中核実験、9
21回の地下核実験



イラク・劣化ウラン被害

6才・白血病及び先天性知的障害児
の子を抱き示す母親



劣化ウラン被害の白血病に苦しむ少年



「力の文明の頂点に核時代をもたらしたわけですから、それを否定して、私たちは『愛の文明』に向かうことが命題です。核開発は必ず国家や大企業の強い側によって使用される。弱い者への差別、抑圧、人権を完全に無視した上に成り立っているのが今の核時代ではないかと。その意味で、核を絶対否定していかなければならない」と語り、「自分たちの地球、自分たち自身の存続を守っていくために、力の限り頑張っ生きていたい」と締めくくりました。

ヒロシマの思想—先人・森瀧市郎の哲学 力の文明＝核の時代

核開発は、国家や大企業の強き側により使用され、弱き者への差別抑圧、人権無視の上になりたつ。

核文明の根底には

権力による支配抑圧するものと

権力によって差別抑圧、無視されるものとの関係が横たわる。

核絶対否定 人類は生きねばならぬ

核と人類は共存できない

- ・人類が核を否定しない限り、核によって人類が否定される
- ・核の開発利用は構造的に差別・抑圧・人権無視の上になりたつ
- ・核被害者の多くは先住民、子供、女、原発下請け労働者、太平洋諸島原住民など弱き立場の者
- ・被爆しない権利を人類として求めていく

合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」（作詞：清水則雄 作曲：藤村記一郎）

休憩後は合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」です。昨年好評で、今年もやりたいとの声を受けて初めて2年連続、4回目の公演となりました。

指揮・演出：大熊啓、ピアノ：菊池リカ、フルート：古城鴻也、トランペット：斎藤暁・山本郁夫、ソロで山本美桜（高校生：ぞう使いの娘）、高山正樹（俳優：動物園の園長）、奥村泰憲（声楽家：ネール首相）の各氏、さらにピエロと軍人が登場。それぞれにふさわしい衣装とメイクを施しました。ソロの時にバックコーラスを取り入れたり、踊りを工夫したり、子どもの出番が際立つなど、昨年から工夫をしました。



♪サーカスがやってきたぞ！で始まる「サーカスのうた」に登場し、4頭のぞうを紹介するピエロ



戦争でサーカスから動物園に売られるぞうを、売らないで！とぞう使いの娘

始まる前に、動物園の在り方など、今は様々な意見があり、そうしたことを踏まえた展示をしましたが、園長役の高山正樹さんに「人間による動物の虐待」について話していただきました。そして「1937年、東山動物園にサーカスから4頭の像がやってきました」。

合唱団に照明が当たり、「サーカスだサーカスだ サーカスがやってきたぞー」と「サーカスのうた」から、40分を上回るソロと踊りと語りと合唱が始まりました。そして、戦争と戦争中の出来事、やっと戦争が終わり、生き残った2頭の像を見にぞう列車を走らせたこと、子どもの希望に応じて、ネール首相が上野動物園にインデラを贈ったこと、最後は「平和とぞうと子どもたち」で♪遊ぼう日の沈むまで♪ 写真でその時の雰囲気味わってください。



空襲警報 発令！空襲警報 発令！あわてて防空壕に避難する子どもたち



どうしても動物を殺さんというなら、しかるべき手段をとるぞ！！と軍人



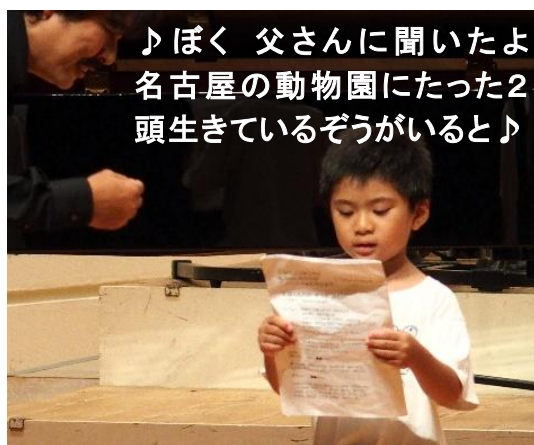
どうしても私には殺せない！と動物園長



飢えと寒さで2頭のぞうが死にましたが、♪マカニー、エルドー、おまえたちは生きてくれ、生き続けてくれ♪と合唱



長い戦争が終わり、東京の子ども議会で、ぞうが見たい、紙に描いたぞうではなく、♪本物のぞうが見たい♪



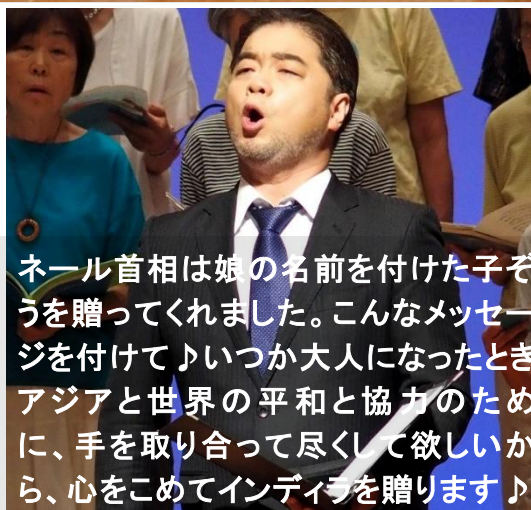
♪ぼく 父さんに聞いたよ
名古屋の動物園にたった2
頭生きているぞうがいると♪



ぞうをかしてくださいと、名古屋の園長さんをお願いに行きましたが、ぞうは弱っているのですから旅することは無理。子どもたちの願いをかなえるために、ぞうれっしゃを走らせました



乗れない子どもはまだ10万もいました。上野動物園にぞうが欲しいと、インドのネール首相に沢山の手紙を送りました



ネール首相は娘の名前を付けた子ぞうを贈ってくれました。こんなメッセージを付けて♪いつか大人になったときアジアと世界の平和と協力のために、手を取り合って尽くして欲しいから、心をこめてインディラを贈ります♪



「ワーン、ぞうだ！ ぞうかいなー」で始まる「平和とぞうと子どもたち」を元気よく歌いました。♪大きな大きな友だちと、遊ぼう 日の沈むまで♪

終了後のアンケートでの感想は「とても感動しました。子ども達が良く頑張っていて、とても嬉しく思いました。」「懐かしく聴かせてもらいました。こうやって若い世代に受け継がれていくのですね。」「昨年に続き聞かせていただきます。いつも明るい気持ちにさせてくれます。子どもたちの笑顔とそれを見守る大人の暖かさが心にしみます。」「小さな子どもが主役だった。」等々、感想は好評でした。特に子どもたちの出演が喜ばれました。

引き続き、恒例の「狛江市平和都市宣言」の朗読と、市歌「水と緑のまち」の全員合唱で締めくくりました。



演奏された方々
左から古城さん、
山本さん
斉藤さん



右:菊池さん



今年は広島市立基町高校生の描いた「原爆の絵」を 2023 年に引き続き、展示しました。森瀧さんの講演で触れられたこともあり、また青年劇場「あの夏の絵」の公演（7/3 平和フェスタも実行委員会に参加）もあったかと思いますが、多くの方の賞賛をいただきました。オリジナルな展示が多く、平和フェスタ 20 年のあゆみ、核廃絶をめざして、「動物園とサーカスといま」、紙芝居「戦争と狛江の子ども達」継承グループの活動、「増田善信さんをしのぶ」、恒例の絵手紙、川柳・俳句・短歌、そして投稿「被災地・能登訪問記」（大熊啓さん提供）など、総じて好評でした。事前・事後に西河原公民館ギャラリーで展示しました。

「こまえ平和フェスタ 20 年のあゆみ」などは昔のことを知らなかった、等のアンケートを頂戴しました。

恒例の平和図書コーナー・折り鶴コーナーも設けました。



展示風景

展示は 8/20-29、9/1-8 西河原公民館ギャラリーでも実施。

こまえ平和フェスタ実行委員会発行
<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>
web-mail@komae-heiwa-fes.clean.to